

野辺地西高移転後 新校名に13案

9月に最終決定、公表へ

八戸学院野辺地西高校（野辺地町）を県立五戸高校跡地（五戸町）へ移転する準備を進めている学校法人光星学院（八戸市）の「移転・開設準備室」は29日、法人事務局で第4回会議を開き、2027年4月の移転後の新校名候補13案について意見を交わした。今後、野辺地西高の外郭団体や五戸町内の中学生からも意見を聞き、それらを踏まえて

同法人と五戸町が協議。9月中旬までに最終決定し、同下旬に公表する。

準備室は法人や系列高校の教職員、五戸町職員ら12人で構成。4月から月1回会議を開いている。

新校名は各委員から寄せられた三十数案の中から、委員全員の投票で「八戸学院大学付属」「八戸学院ひばり野」「八戸学院付属」「八戸学院ひばり野西」「八戸学院ひばり野西」など13案に絞った。委員からは野辺地や五戸を想起させる名称を推す意見と、地名に関わらない名称を求める意見の両方が挙がっているという。

会議ではこのほか、通学バスや部活動、校歌などについても協議。通学バスは十和田便と八戸便を運行し、法人と町が協力して交通手段の確保に努める。部活動は核となる男子サッカー部のほか、女子野球、ダンス、相撲、吹奏楽、地域探究などが設置候補だが、男子サッカー以外の運動部は現時点で指導者がおらず

練習環境もないため、準備が整い次第活動を始める方針とした。

（千葉真由美）